

## 第2回総合戦略会議要旨

プロジェクト名	整理番号
令和元年度第2回八百津町総合戦略会議	
出席者	会議日時
委員9名（内堀委員欠席、桑原委員の代理として毛利様出席） 八百津町役場 副町長、総務課課長以下4名	令和元年11月29日（水） 19:00～21:30
【ぎょうせい】	協議場所
研究員：後藤 東海支社：野口	八百津町役場防災センター 2階

推進委員会における決定事項等
<p><b>【第2回総合戦略会議要旨】</b> 以下のとおり第2回総合戦略会議を実施。</p> <p>■資料</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資料1 第1期施策評価一覧表</li> <li>・資料2 第1期施策の効果検証</li> <li>・資料3 八百津町の将来人口</li> <li>・資料4 住民アンケートの調査結果【速報版】</li> </ul> <p>■主な質疑事項</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 開会の挨拶 <ul style="list-style-type: none"> <li>・桑原委員欠席のため毛利良文様が代理出席</li> </ul> </li> <li>2. 副町長挨拶 <ul style="list-style-type: none"> <li>・1期進捗状況・検証について重点的に話をしたい。</li> </ul> </li> <li>3. 現行総合戦略の進捗状況及び検証について（資料1,2に基づいて事務局説明） <ul style="list-style-type: none"> <li>【基本目標1】について事務局より説明</li> <li>・基本目標1-①杉原千畝記念館の来場者は外国人が微増しているが日本人来場者が増えていない。道路を走っていても杉原千畝記念館の案内看板がない。日本国内向けのPRはどのように行っているのか。</li> <li>⇒リピーターを見込む施設ではない。観光施設としても位置付けており、名古屋等で行う観光PRでも記念館を紹介している。記念館のHPを作成している。ふるさと納税寄附を利用して県内の小学校へ杉原千畝氏の本を寄贈したり、県内の児童を記念館に招待することを計画している。SNSにも力を入れて集客したい。</li> <li>・評価に対し点数評価しているが、評価の仕方、点数の指針及び考え方はあるか？ 未達成目標に対し、分析や課題の改善が弱いのではないか。</li> <li>⇒必要性・効率性・達成度の3つの指標で評価している。必要性、効率性については担当課で判断している。効率性は費用対効果で客観的に判断している。達成度は目標数値に対する結果で評価している。</li> <li>・定住策の町有住宅建設は施策休止・廃止とあるが、今後は実施しないという意味か。</li> <li>⇒新規に町有住宅を建設しないという意味で休止・廃止としている。町有住宅の建設には多額の財政負担が生じるため、現在までに建設した6戸を活用する。町営住宅の入居条</li> </ul> </li> </ol>

件は、10年以内に退去し町内に家を建築することを条件にしている。今後も、退去後も継続して町内に定住していただけるように促していきたい。空き家バンクを利用した移住者の呼び込みにも力をいれていきたい。

・この事業は町有住宅を建設するというのが目標だったのでしょうか？

⇒6世帯という目標があった。

・今後もその6戸を活用して、定住を促進していくということは変わらないということではありますか？それが廃止というのは、おかしいのではないかと？

⇒新たに作ってということであれば目標にしていく必要がありますが、建設した6戸を活用し、町内への定住に繋がるようにしていきたい。

・個人的には町有住宅をどんどん増やすのは、いかがなものかとは考えます。

⇒当初は若者世代向けの町営住宅をもっと建設したらどうかという考えもあったが、町有住宅の入居期間を設けて、その後は町内に住居を構えてもらい、空き家になった町有住宅に新たに将来町内に定住を希望される方に入居いただくという流れができたので、町有住宅の建設は6戸と判断し廃止休止となりました。大宮先生がおっしゃったように完了という言葉のほうが適切であったと反省している。現在までに2世帯が退去され、2世帯とも町内に居住されている。

・施策評価について廃止・休止よりも完了という言葉を使ったほうが誤解なく理解がしやすいのではないかと？

・空き家バンクの登録数は？

⇒空き家バンク登録数は持ち合わせていないが、43世帯、111名の方に移住していただいている、登録はもっと多い。

⇒資料の役場内部での必要性、効率性、達成度は担当課が判断し、それを町長を交えてヒアリングを行い内部評価をしている。その場で担当課が判断した内容の修正も行った。数値化できるものとそうでないものがある。表下段の基準と話し合いによる最後には感覚的なものになってしまうのですが機械的に処理しているものばかりではない。

・休止、廃止の事業の検証については、原因や今後の展望をもっと説明するべきだ。

#### 【基本目標2】について事務局説明

・施策を自己評価していただいたのが資料1、2となる。この自己評価が妥当なのかどうか多様な視点でこの場で検証していく。

・「まちなかにぎわい再生施策」の事業のなり手と再生する店舗のバランスから、「どちらとも言えない」と評価されたと解釈したのですが、実際に事業を起こしたいという情報や声があがってきている状況か？

⇒現状は聞こえてこない。地域おこし協力隊員は「起業したい」という目的のある人を募集している。よって、条件が合う方がいれば、利用してもらえないかと思っている。

・再生事業に対して町としての支援は店舗改修費用助成か？

⇒その理解で問題ない。

・「ハッチ」は利用者が少ないのにも関わらず、店舗の維持費がかかり、毎月赤字だと聞いている。施設維持の補助も考えていく必要があるのではないかと？

⇒事業者は店舗を借り上げてもらい、町に家賃を支払っていただいている。事業者は週末にイベントを開催されたりしておりますが、毎週利用があるわけではない状況です。

・小口融資利子補給制度の対象者は零細な方になると思う。そのレベルの新規開業はマッチするかもしれないがそれ以上の規模の事業者になると少しづれがあると感じる。金融

機関の融資担当という立場で言えば創業関連で融資の申し込みはかなり少ない。小口融資ではなく明確に創業支援と銘打ったほうがアピールにつながるのでは？

⇒今後の課題として検討させてもらう。

#### 【基本目標3】について事務局説明

・海外留学は1年か。

⇒海外留学期間1年は単位取得の問題と大学受験に大きな影響があるため応募が少ない。

・高校生の留学を支援するというのは大変よい事業だと感じる。

・中学生の海外派遣人数は20名から16名に減らされたが、希望者は多い。20名を維持し、多くの子に体験してもらうために自己負担額を引き上げる考えはないか。

⇒選考審査は大変厳しい。

・しっかりと研修の目標をもって取り組んでいただける子供たちに利用してもらいたい。高校生で1年間留学することは勇気がいると思う。

⇒寄附をしてくださっている方に現状を説明し、利用しやすい方法に改善していきたい。

・留学全体の話になりますが、子供が行きたいというよりも親御さんがどう判断するかが大きい。せっかくの機会を親御さんの理解が足らず機会を失うのはもったいない。意識のずれを是正するためにも教育者及び親御さんへの説明も行ってはどうか。

・中学生海外派遣の生徒選考の倍率の高いことは仕方がない、意義を理解しその生活に耐えられるだけの覚悟と研鑽は必要と考える。

・基本目標3が一番重点に置くべきものだと考える。特に、保育士の人員確保の町の現状は？

⇒八百津町だけではなく全国的な問題。保育士を志す方も、現場実習や体験の段階で辞めてしまう方も多し。子どもの数は減っているが3歳未満児のニーズが増えている。待機児童を出さないために保育士確保しなければならない。町の保育士採用試験は、自治体の統一試験を受ける方法で実施しており受験者の負担も大きい。それに比べ、民間では保育士資格があれば即採用という場合もある。今年2回保育士の募集をしたが応募はなかった。町の採用試験の方法も改善していきたい。

・保育士の仕事は多忙であるため、資格はあるが産休育休後の現場復帰をためらわれる方も多し。給与が安いなどの問題もあるのではないか。

⇒保育士の仕事は、多忙で雑務も多い。本来の仕事のみを遂行してもらうよう働き方も考えていきたい。

・婚活事業は、対象となる方はいるはずだが、参加がないために廃止するというのはいかがなものか。やり方の問題ではないか。参加がないことを理由に廃止するのはいかがなものか。

⇒婚活事業は町外の方にも利用していただいている。成婚の成果は、町外同士が結婚された事例はあるが、町内の方同士の成婚は1件にとどまっている。

#### 【基本目標4について】事務局より説明

・八百津町に住みやすいと答えた人のアンケートは中間年は実施していないのか。

⇒未実施です。

・中間年もアンケートを実施していれば、目標を達成するための施策の見直し等対処ができたのではないか。

・防災組織を作ることは意義のあることだが、実際にどんな取り組みを行っているかが大切である。ハザードマップの見方の勉強会など個人の対応力をつけていくことも検討していただきたい。

・まち会の事業は0となっているが、何をもってまち会発信の事業と捉えるのか？  
⇒「まち会」は、第1期総合戦略の時に発足しております。「まち会」の方々から実現可能なものを提案していただくというもので3件を数値目標にさせていただいております。まち会設立当初は、コーディネーターの方をお招きし、組織の支援なども行いましたが、自立していただくことが最終目標です。現在は、町からの支援は行っておりません。発足当時の参加者が全員残っていらっしゃるわけではないと思うのですが、その方たちが定期的に集まられております。ロゲイニングを開催されました。

・町から手が離れた時点で、公式にはまち会の事業ではないという認識でしょうか？  
⇒「まち会」組織はある思っております。そこから事業化できる提案があれば今後もお聞きしていかなければと考えております。

・この廃止・休止は平成29年度をもってのことを書いていらっしゃるという認識でよろしいでしょうか？

⇒自立いただいたとので、その段階で完了したと理解いただきたい。

・まち会への支援は行政からあったのか？

⇒コーディネーターにかかる費用支援を実施。

・まち会は、まちの施策に取り組む提案をしてくれる組織と位置付け、そこからいいものがあれば町の公的な施策としてやっていきたいという意味の3件で、まち会が独自に取り組む3件というわけではないか。

⇒発足当時の目的は、自分たちで地域のことを考えて自分たちで考えていただきたいというのが目標でございました。もちろんまち会から独自の事業が出てくることを期待していた。

・自立してできるようになったので、公的な事業からは離されたということで完了という形でよろしいかと思えます。

・再生可能なエネルギーについて、水素などはかなり先進的な取組であるが、単発的に水素やバイオマスだけでは、目標の達成できないのではないか。八百津にある丸山ダムを代表するように従来の水力発電など従来からのものも含めても総合的に考えていくことも必要ではないか要望したい。

⇒地元の水を使って、水素製造によって熱も得られる。それを使って野菜を作るなどの提案もいただいている。施設ができれば、雇用も創出されると思う。

・小水力発電をやり始めているところもある。八百津は高低差も大きく沢と水があれば発電できるので検討していただければと思う。

#### 地方創生加速化交付金

##### 【再生可能エネルギーによる「水素社会」実現プロジェクト】について

・久田見にある施設は関係あるのか

⇒事業を行うことになれば、その協力がなければできないことですし、木材が必要ですので、ワークショップを行い森林組合など関係者には概ね説明はしてございます。できたときにはご協力していただくようお願いしてございます。

・バイオマス施設は稼働しているのか。

⇒バイオマスの施設はない。

#### 4. 人口推計について（資料3に基づき事務局説明）

5. 住民アンケート調査結果について（資料4に基づき株式会社ぎょうせいが説明）

- ・ 回答者傾向について、60代、70代の回答率が上がっている。年齢が上がったことで単身の方、1世代の回答属性が増えている。
- ・ 町の住みやすさ、59,2%で70%の指標に届かなかったがとても住みやすいと回答した方は増えた。
- ・ 定住意向は都市部と比べると高い、自然環境が豊かで美しいという回答が理由として一番多い。
- ・ 他市町村に移りたい理由の一番多い理由は通勤・買い物等の不便。
- ・ 満足度の高い施策は水道整備、廃棄物処理、低い施策は生活交通確保、観光交流、商工業振興。
- ・ 重要度の高いものは医療・保健・福祉状況、廃棄物状況、地域防災。低いものは新エネルギー導入状況、公園スポーツ施設状況、住民参画・協働状況。
- ・ 少子化の主な原因については自分の所得・雇用が原因、子育て費用への不安という回答が多かった。少子化を抑えるために必要なこと、出産・教育への支援、結婚・出会いへの支援が必要という回答が多かった。
- ・ 次期戦略について何を重視するか、回答は女性・高齢者・外国人など誰もが活躍できるとう視点を取り入れた地方創生が一番多かった。次点で関係人口の創出、拡大。
- ・ 地域別での意識が非常に気になる。

⇒ 報告書には地域比較は入れているのである程度傾向が見えるように作る。

- ・ アンケートの回答者の年齢のかたよりは大丈夫か

⇒ 地域別のデータについても取りまとめます。

6. 第2期総合戦略に向けたご意見について

- ・ 『第2期総合戦略に向けた意見記入シート』にて委員意見をいただく。新規についてはアイデアを、既存については深化について。

以上